

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: <http://www.konbukuroike.com>

2023 年 1 月

第 105 号

主な予定

森林総研ナラ枯れ 現地調査

1 月 11 日 (水)

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆さんはご承知の通り、昨年から『市民の力で湧水を守る・柏市こんぶくろ池物語』の第 2 版の発行準備を進めております。

その冒頭挨拶で、こんぶくろ池自然博物公園アドバイザーで千葉大学教授の小林達明先生からお言葉をいただきました。

最初にこの原稿を受け取った際、会員の皆さんがボランティアとして長年携わってこられた活動姿勢やその内容について、お褒めの言葉をいただいたことに大変感激し、新しく発行される冊子の挨拶文だけではなく、直接会員の方にもいち早く届けたいという思いが募り、是非ともこのこんぶくろ池通信の新年号に掲載させていただきたいと、小林先生のご承諾をいただきましたので、下記に紹介させていただきます。

新しい年のスタートにあたり、気持ちを新たに保全活動に皆さんと取り組んでいきたいと思っております。今年もよろしく願いいたします。

第 2 版の発行にあたって

こんぶくろ池自然博物公園アドバイザー会議
小林 達明

NPO 法人こんぶくろ池自然の森は、平成 23 (2011) 年に日本自然保護協会第 10 回沼田眞賞を受賞しました。本書の初版は、その記念に、千葉大学房総研究会が発行していた千葉学ブックレットの一卷として刊行されました。本書の刊行に際して、古在豊樹元千葉大学学長からは、「本書の内容こそ、千葉学にふさわしいものだと思います。また、市民科学の良き一例だと思います。この本が市民科学、NPO 法人活動の新たな一歩になると感じます。数年前のこんぶくろ池と今のこんぶくろ池の違いは歴然としており、市民活動としての NPO 活動が『学』としてまとめられ出版されたことは快挙だと思います」との言葉をいただきました。

市民科学は 1990 年代後半から使われ始めた言葉で、2014 年に欧州委員会は「一般市民が科学研究活動に参加し、知的営為や地域的な知識をもって、あるいは所有するツールやリソースを用いて、能動的に科学に貢献することを指す」と定義しました。すなわち古在学長は、こんぶくろ池の活動や本書の内容は、地球環境問題の解決に大きな役

割が期待される市民科学という新しい概念の先駆けだというわけです。

例えば、平成 17 (2005) 年にまとめられた「こんぶくろ池公園整備基本計画策定調査報告書」では、公園の使命として、①自然の保全・再生・創出によって、100 年の森を育て、②森と人の営みを活かして、心豊かな人を育て、③自然といつまでも共生できる健康なまちを育てる、と三つの考え方を示しています。これは現在喧伝される SDGs (持続可能な開発目標) を最も簡潔に表現している考え方とも言えます。

こんぶくろ池の活動に参加されている皆さんは、特段すばらしいことをやっている的意识されているわけでもないと思像しますが、少し離れた立場から見ると、その活動は、市民が主体となって行政と対等に主張し、責任を持ち、科学を尊重しながら民主的に組織を運営している、わが国では稀な例ではないかと思えます。その拠り所の一つとして本書が利用され、今回重版されるということに、初版刊行に携わった一人として大変うれしく思います。また、こんぶくろ池の活動が、地域のまちづくりと心豊かな人育てに引き続き寄与していくことを心から期待します。

木道整備 3 ヶ年計画について

理事長 岡本 昇

新年、明けましておめでとうございます。

昨年はコロナ禍がまだ続く中、7 月より整備を始めた木道が 12 月に完成。全長約 100 メートルの木道です。地金堀エリアにあった旧木道は 2013 年 3 月に整備されましたが、4、5 年前から朽ち果てはじめ、歩くにはとても危険なため閉鎖し、最近は通行止めにしていました。

例えばちょうど 3 年前、コロナ禍が始まった間もなくの頃、ベテラン会員の伯耆田さんから、「弁天池の周りの遊歩道がぬかるみ、木道も腐っているのでどうにかしませんか」と相談を持ち掛けられたのが始まりでした。私も従来の旧木道が朽ちてきており、足を引っ掛けたり、転んだり、滑ったりするのではないかと危惧しておりました。そこで、すかさず「そうですね。是非やりましょう」と意気投合。

旧木道づくりの工法は、園内の杉材を角材に加工して作り出したので、当時は基礎をしっかりと作らねばとの考えに至っていませんでしたが、今回は過去の経験を踏まえて、湿地帯のもとでも長期に耐えられるように見直し、第一には防腐剤入りの木材を使用すること、二つには木道の基礎は風通しの良い工法に改良し、木道を作ることにしました。資材の調達に当たっては、防腐剤調整済みの板や角材、コンクリート板・ブロックの資材が調達できるかどうか確認したところ、資材の入手は可能と判断しましたが、課題は購入費用等の捻出でした。そこで最初に柏市に相談した結果、現物支給の約束を取り付けられたことで弁天池周りの木道整備に着手。この木道が公園を訪れる方々など

に大変評判が良かったので、いよいよ次に、地金堀エリアの木道をリニューアルしようと3年計画を立案し、柏市に再度相談しました。

2021年度は第1期工事として、園路からズミが生育している地金堀までのルートを整備し、翌年度の2期工事は観察デッキまでを延伸整備する、と計画していましたが、ロシアによるウクライナ侵攻が勃発し、木材が高騰、いわゆるウッドショックに見舞われました。しかし、助成金などにより資材確保の見通しがたったため、第3期工事を前倒しし、2022年度中に予定の木道を完成させる方向に一気に舵を切り直しました。

木道づくりの作業は、地下足袋姿がかっこいい伯耆田さんを「お頭」に、また、旧木道づくりに尽力された大ベテランの駒嶺さん、そしてサブの茂垣さんを中心に会員が一致団結して取り組みました。延べ作業人数200人超が木道づくりに関わりました。

整備に当たってまずは、従来の木道のコースを全面的に見直し、より地金堀の川の流れに沿ったコースに変更するため、調査活動のリーダーである上田さんたちと連携し、貴重種などに配慮しつつ伐採や除草を行いました。具体的に行った作業は次の通りです。

1. 旧木道の撤去、搬出
2. 管理棟で「筏（縦 180 c m、横 50 c m）」づくり。現場まで随時運搬
3. 基礎工事は地ならし、地固め、高低差調整（コンクリート板・ブロック設置）
4. 「筏」の切断、加工、連結
5. 木道両側に杭打ち、ロープ柵
6. 防腐剤を塗布

これら一連の工事が無事に終了出来たことは、ひとえに里山や調査活動に取り組んでおられる会員の皆さまが思いを一つに取り組んだ結果、完成できたものと思います。心より感謝申し上げます。





2023年の年頭に当たって、装いも新たになった木道を是非ご覧になり、こんぶくろ池自然博物館を訪れて頂ければ幸いです。

一年で一番、こんぶくろ池自然博物館の森が、森らしくなるのは冬であります。太陽の光の射す角度によって森が明るくなり、枯れ葉や枯草などがキラキラとよく見え、園路いっぱいに広がる落ち葉の上を歩くと「カサカサ、カサカサ」と踏みしめる音がなんとも心地よい。また、季節の移り変わりだけでなく、一日のうちで時刻や、天気によっても、見る人の心の状態によっても、映る景色は変わってくるのではないかと思います。皆さまいかがでしょうか。

このような中、多様な動植物が生息、生育する四季折り折りの当公園の魅力に触れ、そし

て、我々と共に未来に向けて、ご一緒に里山保全活動や調査活動に参加してみませんか。会員一同心よりお待ちしております。

付記

1. 木道開通の12月18日、一般社団法人日本ユネスコ協会連盟による「2022未来遺産プロジェクト」現地調査にお越しになった際に木道を案内したところ、立派な出来栄に感心しておられました。
2. 木道づくりにサポーターとして明大生や東京農大生が参加されました。

12月理事会

(日時) 2022年12月24日(土) 13:00~17:00

(場所) 管理事務所

(出席者) 議長(理事長) : 岡本

出席理事 : 中川、上田、徳永、萩原(書記)

1. 審議検討・確認事項

(1) 来年度(2023年度)に向けての課題の検討

会員向けアンケート結果報告とそれを踏まえての来年度方針の検討を行った(継続審議)

- ・ 来年度のイベント計画について(標本展示、自然観察会、夜の昆虫観察会、きのこ観察会)
- ・ 自然調査活動と里山保全活動の活動日について
- ・ 保全活動体験会の時期について

(2) 今年度の執行状況確認及び第4四半期の予算執行予定について

- ・ 「池物語」の制作費用の支払い以外、備品購入等については予算執行状況を確認

(3) 「(千葉学ブックレット)池物語」増補版発注に向けての取組状況について

- ・ 12月22日入稿完了
 - ・ 契約書締結後制作費用の1/3を支払
 - ・ 校正刷りを含む校正作業
 - ・ 納品：2月15日
 - ・ 下版用のデジタルデータ（PDF）はNPOに無償譲渡
- (4) (3月開催)「里山保全活動体験会」の準備状況について
- ・ 12/16に「広報かしわ」への案内記事掲載依頼済
 - ・ アンケートの内容について要修正（中川、上田）
- (5) ナラ枯れ被害木対応状況について
- ・ 対応被害木（伐採28本、ネット巻き付け74本の計102本）カシナガホイホイは無し
 - ・ 1/11 森林総研来園
 - ・ 2月上旬作業開始（オオタカの飛来も予想されるため可能な限り早める旨申入れ済）
 - ・ 3月上旬作業完了
- (6) 今後の植物標本の管理について
- ・ 徳永理事を担当理事として、他会員と標本管理の具体策を検討
- (7) 「柏ネイチャークラフト展2023」への出展依頼対応について
事務局からの連絡なし
- (8) 1～2月活動計画
- ・ 協議の結果の情報を共有した。
- (9) 1月の通信記事
- ・ 担当者よりの報告を受けた。

2. 報告事項

- ① プロジェクト未来遺産2023 現地調査（12/18 10:05～16:00）（山上・岡本・上田・中川）
- ② 東大 佐藤先生水質調査採水（随時）（上田・川瀬）

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。

新入会員紹介

古野 妙子さん



参加動機：貴重な自然を次の世代に残したい。

貢献できそうなこと：調査

趣味・好きなこと：パン作り